

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援きりんハウス		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日	～	令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日	～	令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援を重視していること。	日々の支援記録や職員間の情報共有を通じて、児童一人ひとりの特性や得意不得意、気持ちの変化を把握し、それぞれに合った関わり方や支援方法を意識している。活動についても個別活動と集団活動を組み合わせ、安心して成功体験を積み重ねられるよう支援を行っている。	外部研修や専門機関との連携をさらに強化し、発達特性や感覚特性、行動面への理解を深めることで、より専門性の高い個別支援につなげていく。また、職員全体で支援方法の統一を図り、安定した支援提供体制を充実させていく。
2	保護者との連携や相談しやすい関係づくりを大切にしていること。	送迎時や面談、連絡帳等を通じて、日々の様子や成長、課題等を丁寧に共有している。保護者が安心して相談できるよう、日常的なコミュニケーションを大切にし、小さな変化についても共有を行っている。また、家庭での困りごとに対して必要な助言や情報提供を行えるよう努めている。	保護者ニーズに応じた相談機会の充実や、ICTツール等を活用した情報共有方法の改善を図っていく。また、今後は家族支援プログラムや保護者向け研修等についても実施を検討し、家庭支援の充実につなげていく。
3	児童が安心して過ごせる環境づくりを意識していること。	視覚支援やスケジュール提示、活動スペースの整理等を行い、児童が見通しを持って安心して過ごせる環境づくりを行っている。また、個別対応が必要な場合にはクールダウンスペースを活用する等、児童の状態に応じた環境調整を行っている。安全面にも配慮し、事故防止や衛生管理にも継続して取り組んでいる。	利用児童の特性や人数に応じた環境設定について、継続的な見直しを行っている。また、より快適かつ安全に過ごせるよう、設備面や空間活用方法の改善を進め、多様なニーズへ柔軟に対応できる環境整備を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって支援方法や理解に差が生じる場合があること。	シフト勤務や非常勤職員を含む体制のため、情報共有のタイミングに差が生じる場合がある。また、経験年数や知識量の違いにより、支援方法や児童理解に差が出ることがある。	定期的なケース会議や支援振り返りを充実させ、支援方針の統一を図っていく。また、内部研修や外部研修への参加を推進し、職員全体の専門性向上と共通理解の強化につなげていく。
2	地域交流や関係機関との連携機会に限りがあること。	安全面への配慮や調整負担、感染症状況等により、地域活動や外部交流機会の実施が限定的になる場合がある。また、関係機関との情報共有についても継続的な調整が必要となる。	地域イベントや地域資源を積極的に活用し、無理のない範囲で交流機会を増やしていく。また、保育所・幼稚園・学校・相談支援事業所等との連携体制を強化し、継続的な情報共有や相互理解につなげていく。
3	家族支援や保護者向け支援体制が十分とは言えないこと。	日々の相談対応は行っているものの、ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラム実施には至っていない。専門資格を持つ職員や実施体制の整備が今後の課題となっている。	資格取得を目指す職員育成や外部研修参加を進め、専門性向上を図っていく。また、保護者向け勉強会や交流会等を段階的に実施し、家庭支援体制の充実につなげていく。